

災害対策

せまりくる地震に備えて

～できることから地震対策～



写真提供 三重県

「地震大国 日本」。日本は地震発生率が高く、6月14日には岩手・宮城で内陸地震が、7月24日には岩手県沿岸北部での地震が発生し、1995年の阪神・淡路大震災に匹敵する強い揺れを伴い全国に激震が走りました。また、昨年4月15日には、三重県中部を震源地とする地震が発生し、いなべ市でも震度4を観測しました。いつ私たちの身に災害が起こるか分かりません。日ごろから地震に対する正しい知識と心がまえが大切です。地震が発生した！そのときは、すばやく状況判断し、どのような場所で災害にあっても対応できる行動をみんなで確認しましょう。

有感地震（震度1以上の地震回数） 全国2,098回 三重県28回 平成19年度（余震を含めた回数です）

地震発生!! 家の中にいる時、私たちはどう行動する？

- 窓の周辺から離れる。** (Move away from windows.)
- テーブルなどの下にもぐって落下物・転倒物から身を守る。** (Crouch under tables to protect from falling objects.)
- ブロック塀の倒壊に気をつける。** (Be careful of falling concrete blocks.)
- 幼児・お年寄りの身を守る。** (Protect children and the elderly.)
- 火の始末を忘れない。** (Don't forget to turn off the stove.)
- ドアなどを少し開けて脱出口を確保する。あわてて外へ逃げ出さない。** (Slightly open doors to ensure escape routes. Don't panic and run outside.)

函館市「防災ハンドtoハンド」から

震度階級

震度0 人は揺れを感じない。 	震度1 屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。 	震度2 屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。 	震度3 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。 	震度4 かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが目覚めます。
------------------------------	--	---	--	---








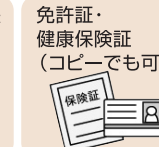










震度 震度とは地震の際、ある地点で感じる振動（揺れ）の強弱を表す値であり、この強弱を10階級で表しています。

マグニチュード(M) マグニチュードとは、地震のエネルギーの大きさを表し、数字が大きいほど規模の大きい地震となります。

これだけは揃えたい!!

避難時の持ち出し品リスト

災害時にはライフラインがストップする恐れがあります。最低3日間は家族がしのげる備えをしっかりと準備しましょう。リストの他にも家族の大切なものをあらためてチェックすることもお忘れなく！

3日分の水 	3日分の食料 	現金 
携帯ラジオ 	懐中電灯 	非常持ち出し袋 
印鑑・預貯金通帳 	免許証・健康保険証 (コピーでも可) 	下着・上着などの衣料 
雨具・ヘルメット 	固形燃料・缶切り 	マッチ・ライター 
予備のメガネ・コンタクトレンズ 	メモ帳・筆記用具 	石けん・水のいないシャンプー 
ティッシュ・生理用品 	緊急医薬品 	粉ミルク・ほ乳びん・紙おむつ 

自らの命は自らが守る!!

大安町にお住まいの杉松さんにお話を伺いました。

取材：杉松さんの防災対策を教えてください。

杉松さん：我が家では家族全員の目に付くところ(居間)に、「非常持ち出し袋」を準備しています。また、家族の避難経路・場所を確認することや、テレビ・新聞などで災害情報を気にして見えています。



取材：袋の中身を見せていただいてもいいですか？

杉松さん：どうぞ！足りないものあるかしら？

取材：「持ち出し品リスト」を見てみると少し足りないもの(現金・衣料など)がありますね。それと家族4人いらっしゃるようですが、3日分の食料や水は足りてないようですね。

杉松さん：そうですか。家族4人それぞれの「非常持ち出し袋」を準備しないとイケないですね。

取材：袋はリュック式ですが、水や缶詰めが重くて持ち運びときに大変なので家の外にボックスを置いてそこに備蓄している方もいるようですよ。

杉松さん：それはいい考えですね。最低限のものは袋に入れて持ち運び、どうしても入らないものなんかはその方法もいいかもしれませんね。

取材：大地震発生の「そのとき」に備えて、日ごろからの準備をすることはもちろん、どこにいても、地震に対して最も安全な行動がとれるよう心掛けておきたいものですね。家の中を見回して、もう一度確認してみてくださいね。



9月1日は「防災の日」です

多数の死者を出した関東大震災が発生した日(大正12年9月1日)にちなんで制定された日であり、全国各地で防災訓練が行われる日となっています。災害への備えを怠らないよう気を引き締めたいものです。

みなさんへ

災害は、決して他人事ではありません。被害を少しでも小さくするために、大きな力となるのは自分の身は自分で守ること。そのために、今、できること、しなければならないことを考え、行動しましょう。大切なのは、普段の心がけなのですから…

震度5弱

多くの人が、身の安全をを図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。



震度5強

非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。



震度6弱

立っていることが困難になる。



震度6強

立っていることができません、はわないと動くことができない。



震度7

揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。

